

【中学生区分】

宮城県優秀賞

「障害者と健常者について」

栗原市立志波姫中学校

3年 遠藤 羽奏

みなさんは「障害者」という言葉を聞いた時、どのような人を想像しますか。また「障害者」の人達についてどのように考えますか。目が見えない人、耳が聞こえない人、あるいは体のどこかに障害がある人など様々な人達について考えられるかと思います。

私は、「障害者」と聞くと特に目が見えない人について考えます。私が通っていた整体では目が見えない整体師の方が運営されていて、いつも隣にはラブラドールレトリバー、いわゆる盲導犬がいました。その整体師の方は目は見えなかったのですが記憶力が健常者の人よりも良く、いつも驚かされていました。

私は、その人に会って「障害者」についてより深く考えるようになりました。そして健常者と障害者は同じで一緒であるという考えを持つようになりました。先ほども言った目が見えない人、耳が聞こえない人などの体のどこかに障害がある人や知的な障害を持つ人がいます。ですがこの人達は見た目などが私達と少し違っているだけで楽しい、嬉しい、悲しい、悔しいなどの感情を同じように持っています。そしてこれが私が考える健常者と障害者は同じで一緒であるという考えです。なので障害を持っている人はかわいそうやおかしいなどの同情や偏見は良くないと思います。同じ1人の人間として公平に接すべきだと私は考えます。ですが私はその整体師の先生と会うまでは障害を持っている人を見るとかわいそうだなと同情していました。私は、心の中で勝手に自分と障害を持っている人と比べて自分と何か違うことがあるとそこで思ったことを相手の人の印象にしていました。その思いもきっと偏見であると思います。なのでこれからは自分の考える

偏見を捨てて自分自身の考える平等な行動ができるように心がけていきたいです。

みなさんは障害を持っている人に対してどのような接し方をしていますか。障害を持っている人に対してふざけて話したり、イタズラをしていませんか。そのようなことをされた時、障害を持っている人はどう思っているのでしょうか。嫌なことをされて嬉しいと思う人はいないはずです。そして、障害を持っている人も、障害を持っていない人も嫌なことをされて嫌になるのはみんな一緒のはずです。健常者の障害をもっている人に対しての接し方や勝手な行動で障害を持っている人達は傷つけられます。ですから私達が障害を持っている人に対して偏見を捨てて、1人1人が思いやりのある行動をすることで健常者と障害を持っている人が平等な関係を築いていくことができると思います。そのためには健常者1人1人が障害を持っている人への自分の接し方を改善することが必要です。なので障害を持っている人に対して健常者が意識した行動をとれば、今困っている障害を持っている人もその人の人権を守ることができます。みんなは1人のため、1人はみんなのために行動することができれば偏見のない平等な社会になるのではないのでしょうか。